

時空の漂泊

(二〇一〇年十二月二十二日 第四十二号)

高橋 滋

広島便り

二〇一〇里山を歩く(九)

身近な自然観察

夏くる 七月二十七日(火)

峠の竹林で、二年ほど前に竹をチップ化して蒔いていたところを掘ったら、カブトムシがたくさんでてきた。カブトムシは、地中で成虫になった後、しばらくそこに留まるらしい。そのタイミングだったようだ。容器がないのでバケツに入れて、網をかけてベランダに置いておいたら、網を外してだいぶ逃げてしまった。

二十四節気の一。太陽の黄経が一三五度に達する時、太陽

七月三十日(金)

梅雨明け後、快晴・酷暑が続く。しかし、立秋まであと一週間でもある。オ



ミナエシ、キキョウなどが咲きそろいブルックベリーも熟す。暑さのせい昆虫の動きは鈍い。



暦で八月八日頃。以後の暑さを残暑という。

ピーマン類は不作だが、ズッキーニ、オクラ、インゲンなどがそろっている。ことしはミョウガが大変多い。



<http://www.weblio.jp/content/ウバタマムシ>
シジミチョウの一群。日本で二十五種。

キュウリの葉にタマムシ（ウバタマムシ？）がやってきてしばらく休んだ。そのあと同じところに待望のゼフィルスがきた。ここで観察を始めて八年目



<http://ja.wikipedia.org/wiki/ゼフィルス>
<http://homepages.nifty.com/ueyama/shubetsu/sjzjmi/oomi.html>

になるが、見たのは二回目、撮影は始めて。数秒で飛んでいってしまった。オオミドリシジミ（メス）と思う。



<http://spindasis.sakura.ne.jp/sizimi/oomidori/oomidori.html>